

特集・空調冷熱業界の海外事業展開

漁船用冷凍機、中国向けが好調

冷熱エンジンは東南アジア中心に

長谷川鉄工



小野 良二社長

産業用冷凍機メーカーであり、冷熱エンジニアリングも手掛ける長谷川鉄工（社長＝小野良二氏、本社・大阪市港区波除1-4-39）の海外事業は、主に東アジア、東南アジア中心に展開している。今期の海外向け冷凍機販売は漁船用で中国への出荷台数が好調に推移する。冷熱エンジニアリング事業は一昨年来タイで大型物流倉庫の冷凍冷蔵設備（冷設）を完工。今期も東南アジアで日系企業を主要顧客とした需要を見込む。

同社は1921年に国産第一号冷凍機として横置単筒複動式アンモニア圧縮機を製作した。パイオニア。圧縮機の開発・製造から冷凍機のアッセンブリーに加え、これらの冷凍機を用いた冷熱プラント、製氷プラント、冷凍冷蔵倉庫などの設計・施工、メンテナンスサービスを国内外で手掛ける。独自の創造力と技術力が生み出す圧縮機・冷凍機は船舶用、食品工業用、化学／一般工業用、各種製氷用、恒温恒湿空調用などの冷設の心臓部に活躍。特に超低温用途に特化した冷凍用圧縮機の展開ではマグロ漁船分野で世界シェア80%以上を占める。

小野社長は自社製冷凍機の特性について「高効率で省エネルギーであることはもちろんだが、小型でメンテナンス性に優れる点がエンドユーザーから好評いただけている。船舶の冷凍機は長い航海中にメンテナンスや修理を行う必要性に迫られる場合がある。専門の冷凍機エンジニアが居合わせなくても、一般的な機械知識のある船員で、ある程度のレベルまでメンテナンスを実施できる冷凍機が好まれる。当社のVZ型、VK型冷凍機は堅牢で故障しにくい上、メンテナンスを考慮された構造であり、短時間で確実な保守が可能」と話す。

冷凍機販売は現在、東アジア、東南アジア、中国、豪州、米国に代理店を擁立。今期（2013年10月～14年9月）業況は台湾の代理店経由で台湾国内や中国向けに漁船搭載用途で出荷される台数が大幅に増加しているもようだ。これが推進力となり同社全体の冷凍機通期販売台数は前期比1.3倍近くに膨らむ見通し。

冷熱エンジニアリングでも存在感を示す。環境にやさしい自然冷媒のアンモニアを使用した冷設施工技術の高さで差別化する一方、HFC系の高圧フロン冷媒も巧みに、そして安全に使いこなす。ユーザーが求める温度域や要件に最適な設備

を具現化。一品一様のシステム設計と高度な冷熱技術を提供し、生産現場や流通過程で商品の品質担保に貢献している。エンジニアリングの海外展開ではタイ、インドネシアなど東南アジアでの物流倉庫案件で実績を残す。昨年にはタイで総収容能力4万5千ト規模の物流倉庫の冷設を完工した。今期も東南アジア圏で日系企業の現地法人向けからの引き合いに対応中。冷熱プラントの施工を手掛けるべく現在商談を進めている。



機械室にスラリと並ぶ圧縮機ユニット。今期も東南アジア圏で日系企業の現地法人向けからの引き合いに対応中。冷熱プラントの施工を手掛けるべく現在商談を進めている。